

【日時】2018年3月13日（火）-16日（金）

【テーマ】 越境する身体と知

【目的】

東北大学の教員・学生が、ベルギー・ヘントに約一週間滞在し交流・研修を行う。ヘント大学において日本学のワークショップ・シンポジウムを開催して、同大学および支倉リーグ加盟大学の教員・学生と交流し、相互理解を深める。それを通して、東北大学の学生の留学への意識を醸成するとともに、ヘント大学ほか欧州諸大学の学生に対しては東北大学への留学を促進する機会とする。

【概要】

本プログラムは、ヘント大学と東北大学文化系四部局が合同で開催する国際シンポジウム・ワークショップである。参加者は東北大学の教員・学生と、ヘント大学ほか支倉リーグに加盟する欧州の大学の教員・学生である。プログラムとしては、以下のような内容を予定している。

3月13日（火） 東北大学・ヘント大学の教員による基調講演
東北大学・ヘント大学・支倉リーグ加盟大学の学生によるワークショップ

3月14日（水）-15日（木） 震災をテーマにしたシンポジウム
3月16日（金） エクスカーション

今後のスケジュールとしては、9月末に本ワークショップのアナウンスを行い、参加学生を公募する。学生本人のプロポーザルと指導教官の推薦書をもとに、参加学生を選抜する。（なお、ヘント大学側の諸処の条件等により、計画は一部変更されることがある。）

【企画のねらい】

本プログラムの実施によって、ヘント大学および支倉リーグ加盟大学との関係が強化され、日本学国際共同大学院の開設に向けた実績となる。まず、教育面において、東北大学の学生にとっては、欧州の有力大学の学生との交流によって国際感覚が養われ、帰国後の学習意欲の向上につながることを期待される。また同時に、留学に対する意識を高めることで、交換留学、ひいては日本学国際共同大学院入学への動機づけともなる。

研究面においては、ヘント大学の教員との信頼関係に基づいたネットワークを構築し、人的な交流を密にすることで、日本学国際共同大学への参画・連繫を促進する。これによってベルギーにおける東北大学のプレゼンス向上に繋がることを期待できる。

【ヘント大学とヘント】

東北大学文化系部局は欧州諸大学との連携協定を強みとしており、他大学と比較しても、ベルギーとの関係は大きな特色となっている。とくにヘント大学はルーヴァン・カトリック大学と並ぶベルギーの最高学府であり、日本学における研究・教育面でもベルギーにおける最大規模を誇っている。近く設置される日本学国際共同大学院においては、連携協力のパートナーとして欠かせない存在となる。

ヘントはベルギー第三の都市で、落ち着いた美しい街。街のシンボルである聖ハープ大聖堂には、ファン・エイク兄弟のあまりにも有名な神秘の子羊が掲げられている。ヘントでの経験は、大いなる知的刺激と学びの喜びをもたらしてくれるに違いない。